

令和6年9月 東御市教育委員会 定例会会議録

1 日 時

令和6年（2024年）9月25日（月）午前9時から午前10時30分まで

2 場 所

中央公民館 学習室5

3 議 題

（1）協議（審議・検討）

議案第42号 就学援助費の支給認定について

（2）重点取り組み

- ア 不登校対応について
- イ いじめの状況等について
- ウ 学校ICT教育について
- エ 幼保小の連携について

（3）報告

ア 教育委員会

- （ア）令和6年度定期監査報告について

イ 教育課

- （ア）全国学力・学習状況調査の結果と考察について
- （イ）標準学力調査（NRT）の結果と考察について
- （ウ）北御牧地区市民団体からの意見について
- （エ）児童館における夏休み期間中の利用状況について
- （オ）滋野児童館建設工事の進捗状況について

ウ 保育課

- （ア）令和7年度保育園等入園一斉受付について

エ 地域づくり支援課

- （ア）とうみ子どもクラブ受講生募集について

4 出席者

○教育長

山口千春

○教育委員

教育長職務代理者 小 林 経 明

委員 直井 良一

委員 小林利佳

委員 富岡 志津子

○その他

深井教育次長、土屋教育課長、春原保育課長、

高野学校教育係長、小宮山学校施設係長、池田学校同和人権教育係長、

長岡指導主事、畑田指導主事、岡澤指導主事、染野指導主事

塚田学校教育係主事

会議録

深井教育次長

ただいまから、９月度定例教育委員会を始めます。それでは、教育長から開会宣告をお願いします。

山口教育長

それでは、９月度定例教育委員会を始めます。

深井教育次長

続きまして、教育長あいさつをお願いします。

山口教育長

本日はお集まりいただきありがとうございます。

私が指導主事の際に、業務分担の一つだった「幼保小連携」を進めてきた中で、保育園では、保育指針の改訂を受け、他市町村の保育園の先行事例の見学など独自に職員研修を深め、苦しみながらも新しい指針に沿った保育を模索してきました。また、それを受け入れる小学校現場の戸惑いや園と小の間の意識や認識の差、関係者や保護者等の不安や誤解等様々な課題がありました。その課題を少しでも解決の方向に進めるため、令和４年度に幼保小接続委員会を新設しました。接続委員会では、園小の当事者の先生方同士が集まり、園小での実際の子どもの姿を真ん中において、接続カリキュラムの見直しを切り口に意見交換・情報交換ができ、小学校区ごとに相互理解を深めることができました。その結果、コロナが５類になったことも重なり、子ども同士の交流や職員研修が計画され、実践されてくるようになりました。

本年度、保育課が教育委員会に事務委任され、教育委員会の重点取組に「幼保小連携」を加えました。本年度は、２回目の接続委員会を小学校区ごとに行い、当事者の先生だけでなく管理職の先生や関心のある先生などが参加できるようにする等、さらに接続・連携を進めてきています。

また、東御市では小中一貫(型)教育が進められてきた経緯があり、現在でも関係する事業が各中学校区で行われて成果を上げています。例えば９月９日には「東部中地区授業交流」が行われ、今年度は田中小学校と滋野小学校が会場校となりました。東部中区の小中学校の先生が会場校に出向いて授業参観をし、参観後にその教室で授業や児童の様子、小中連携について等、小グループで自由に意見交換・情報交換をしました。私も田中小学校の６年生の社会の授業参観をしました。参観後、授業者を含めた６名で懇談をし、全員が複数回発言し、和やかな中にも中身の濃い会となりました。中学校の社会の先生もいたの

で、まさに社会の授業についての小中連携の時間になり、お互いの授業づくりの参考になったと感じました。

教員の感想としては、「小学校の段階から先生方の多くの苦労があつての中学校での成長があるのだなと再確認しました。発達段階を考慮して一人一人の子どもに対してかかわることの難しさ、大切さを感じました。中学校職員も小学校職員から多くを学ぶべきだなと思います」、「小学校の先生方との交流する機会はありませんので、とても貴重な機会になりました。小学校から中学校への学び方の繋がりとして自主学習のあり方についての議論が盛り上がり、とても勉強になりました」、「小学校から中学校へ繋げることや、小学校内でも学年で次に繋げることを意識して学習をすることの大切さを実感しました。タブレットを使う良さと、板書に残す良さの両方を、単元ごとに確認する必要さも気づけました。」、「ICTについて積極的に扱う姿勢を感じた。他の学校の先生方と普段の悩みや夏休みのことなど真面目な話から楽しい話まで交流することができて良かった。」等がありました。

事務局内では担当と相談をして「幼保小中連携」に向けて原案を検討しています。今後、校長会等で意見も聞きながら、具体的に進めていきたいと考えています。

さて、先日9月11日には祢津小学校でのアスリート給食の試食を行いました。委員の皆様にはご参加いただきありがとうございました。試食の前に、GMOアスリーツパーク湯の丸PR大使の金藤理絵さんや管理栄養士の話をお聞きしましたが、話し手に体を向けてしっかり聞く姿や話の後の質問、給食中のマナーや態度、メディアの質問の答え等、どの姿も「さすが6年生」という思いがして、とても嬉しく思います。給食も大変おいしくいただきました。

今週末には中学校の文化祭、10月2日の保育園うんどう参観日、10～11月には小学校の音楽会と行事が続きますが、委員の皆様にはぜひお越しくださいますようよろしくお願いします。

(1) 協議（審議・検討）

山口教育長

議案第42号就学援助費の支給認定について、この内容は個人情報を含むため、秘密会としてよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

山口教育長

それでは秘密会とします。

続きまして、(2) 重点取組みに移ります。ア 不登校対応について、説明を求めます。

長岡指導主事

ア 不登校対応について、説明します。(個人が特定される情報は非公開)

8月末現在の状況であります。夏休み明けで登校日数が6日であり、不登校の基準となる30日を超える児童はいませんでした。中学校においては、30日を上回る生徒がいました。夏休み中に各学校では、電話連絡や登校日の指導等も行っています。また、家庭訪問等も行っており、可能な限り学校へ登校しやすい状況を作ってもらっています。子どもサポートセンターも多くの面で関わっていただいておりますが、引き続き支援を行い、学校の先生と一緒にチームを組みながら対応していただきたいと思います。中学3年生はいよいよ進路の時期に入ってきます。そういったことも含めて、将来を展望した指導ということも必要になってきます。

山口教育長

続きまして、イ いじめの状況について、説明を求めます。

岡澤指導主事

説明します。(個人が特定される情報は非公開)

今月のいじめの報告は少なかったですが、今回も言葉に関する報告が挙がっています。継続して対応している事例において、その子どもについては引き続き担任が様子を見ていく必要があります。今回報告が挙がっている内容は担任ではなく保護者からの連絡によって対応しています。これまで何回も報告がありますが継続して報告している状況ですので、家庭訪問等の対応も必要であると思います。

山口教育長

この内容について、いかがでしょうか。

小林職務代理

継続が多いということは、事案の解決ができていないということだと思います。

岡澤指導主事

そのとおりであると思います。

小林職務代理

特性についてはいかがでしょうか。

畑田指導主事

そのような報告は聞いていません。

小林職務代理

そうであるとクラスや担任に問題があるということになりますが、特にその担任に関する問題等は聞いていませんがいかがでしょうか。

畑田指導主事

特に聞いていません。

小林委員

ご家庭との連絡は取っていないのでしょうか。

岡澤指導主事

保護者からの連絡があった事案ですがその後保護者に連絡を取っているのかはわかりません。

小林委員

早期に対応していただきたいです。

岡澤指導主事

報告の内容には事実確認をして被害者本人に謝罪したとあります。その後本人が納得しているのか等の対応は必要であると思います。

山口教育長

引き続きよろしくお願いします。

続きまして、ウ 学校 ICT 教育について、説明を求めます。

畑田指導主事

報告します。夏休み明けということもあり、機器等の不具合が見られ、対応していただきました。授業支援としては、祢津小学校6年の社会等の授業でロイロノートを使った授業支援を行いました。また、北御牧小学校2年のスマイルドリルに関する授業も行いました。その他には、職員の業務改善に関わる内容もありますが、多岐にわたって支援をしていただいています。

小林職務代理

授業支援以外の内容が多いですが、この業務をやってもらうということを認めてしまうとよくないと考えています。教員の業務支援が必要なのであれば、また別に予算をとって

行ってもらわなければならないと思います。

染野指導主事

特別支援学級は市内には 30 学級あります。

こうした児童生徒に、iPad の無償学習アプリを今年 4 月以降に調査をして選定してもらい、来週あたりからアプリの使用が始まります。この学習アプリは補助的な役割として活用をしていきます。

畑田指導主事

今の内容に補足です。児童生徒が持っている一人 1 台の iPad にアプリを追加するのではなく、支援学級や通級指導教室に各 1 台 iPad を配備し、アプリを追加するということです。

小林職務代理

児童生徒は、原級で 1 台、支援学級や通級教室で 1 台の計 2 台を使用するというのでしょうか。

畑田指導主事

そうではありません。

土屋教育課長

支援学級や通級教室のクラスに各 1 台配備し、その iPad に特別な学習アプリを追加してその教室内で使用するという方法です。当該児童生徒のタブレットに今回の特別なアプリを追加することは業務的にも複雑化してしまい、難しい状況です。

小林職務代理

先ほどの特別支援学級に在籍する児童生徒の割合を踏まえると、この台数では少ないように思えます。

染野指導主事

本来このアプリは補助的な役割として導入を考えています。子どものそれぞれの状況にあったものをということより、時間差をつけて使用するということです。これまでもそのように使用していましたので、使い方について、無理はないのではないかと考えています。

小林職務代理

児童生徒の発達に有効であれば、時間差ではなく、積極的に活用していただきたいです。

畑田指導主事

子ども一人一人によって適合するアプリは異なります。当初学校から要望が挙がってきたものは 100 を超えてきました。全てのアプリを追加することはできませんので、その中でも多くの児童生徒に使われるものをピックアップして選定を行いました。一人一人に合ったアプリを追加した場合、年度末に行う iPad の異動処理の際に作業が複雑化することが考えられます。

小林職務代理

異動処理が複雑化してしまうのは当然であると思います。

学習において絶対的に必要であるのならば、制限をかけずに使用できるようにしていくことが必要であると思います。それらを見極めて活用していくことが必要です。

土屋教育課長

当然一人一人にカスタマイズされている方が使い勝手が良いですが、その一方で、それに対する学校の先生方のタブレットをどうしていくのかといった別の面でも検討事項が出てくるのではと考えています。その点については、今後検討していかなければいけないと考えています。必要に応じて、ICT 推進協議会でも検討していきます。

山口教育長

今回学校から要望のあったアプリは無料のもののみでしょうか。

畑田指導主事

無料と有料どちらもあります。

山口教育長

今回配備する iPad に追加するアプリは 30 台毎それぞれ違うものが追加されるのでしょうか。

土屋教育課長

基本的には同じアプリを追加します。

畑田指導主事

小学校と中学校では多少異なりますが、基本的には同じアプリを追加します。

山口教育長

続きまして、エ 幼保小の連携について、説明を求めます。

染野指導主事

報告します。市内8園において、年長児の行動観察を行いました。長野大学の専門の教授にも参加して助言をいただき、その子どもの特性を念頭に置いたうえで保護者からの教育相談を行いました。総数としては41件で昨年度より11件多い状況です。適正な就学支援として、保護者の悩みを聞きながら、上田養護学校や支援学級に関する相談、通級教室の利用について等相談を受けました。今年度は、通級指導教室、養護学校の先生、子どもサポートセンターの職員等それぞれの専門先生に参加していただけるように計画し、実施しました。保護者の方の思いを踏まえ、丁寧に今後も行っていきたいと思っています。

小林職務代理

長野大学の教授にも参加していただくとありましたが、発達障害専門の方にも参加していただきたいです。

畑田指導主事

長野大学の教授の他にも、知的障害を専門としている方で特別支援学校での勤務の経験がある方も参加していただいています。

山口教育長

私も教育支援委員会に参加していますが、どの子どもについても非常に細かい部分まで見ながら丁寧にやっていただいていると感じています。引き続きお願いしたいと考えています。

春原保育課長

小学校へ「公立保育園 園小接続のための保育に関するアンケート調査」ご協力のお願いと、保育園へ「保育に関するアンケート」についての報告をします。昨年度から、園小接続のためのアンケートを実施しており、今年も小学校と公立保育園で実施します。今後、校長会においても改めて連絡とお願いをします。

山口教育長

このアンケートは誰が回答者となりますか。

春原保育課長

アンケートの回答対象者は、公立保育園保育士と小学校全教職員です。

山口教育長

続きまして、(3) 報告に移ります。順次報告をお願いします。

深井教育次長

(7) 令和6年度定期監査報告について、説明します。

昨日9月定例会が閉会し、令和5年度の決算については議会承認されました。付帯意見については後ほど課長の方から説明します。

教育課及び保育課は7月5日に監査を実施しました。監査の対象及び範囲は令和5年度と監査日までの令和6年度における財務に関する執行状況及び経営に関わる事業の管理状況です。

収入未済額、不納欠損額の適正管理及び処理については、保育課で保育料の収入未済額31,982円がありますが、今後不納欠損として対応していきます。教育課では育英資金貸付金の収入未済額180,000円がありますが、本年度末で完済の予定であります。

続きまして、各課の指摘事項についてです。

教育課学校教育係では、いじめ・不登校対策の充実について指摘事項がありました。監査委員からは早期発見・早期解消を図っている様子がうかがわれ、不登校対策についてもチーム支援の効果が見て取れるとあります。各課横断して連携をとって引き続き対応されたいとあります。また、特別な配慮を要する児童についても同様の指摘事項がありました。

続いて学校施設係です。学校給食施設、給食センターにおいて、市民の理解が得られるよう、丁寧な説明を心がけ、学校関係者やPTA等を交え、慎重な検討を実施したうえで、取り組まれないといった意見をいただいています。

続いて保育課です。保育園の芝の管理について効率化を図りつつ、芝の維持管理業務の委託などを精査するよう指摘事項がありました。また、保育園の人員体制について、やはり適正な保育士の確保に努めるようにとの指摘事項もあります。

全体的には、特に大きな問題指摘もなく、例年、継続的な内容とともに、指摘がありましたが、引き続き対応して参りたいというように考えています。

土屋教育課長

今回の決算の付帯意見について、議会からの教育委員会に関わる部分のご説明をします。

1点目が不登校対策についてです。不登校率が上昇していくという状況は全国的に起きている状況ですが、その予防対策を丁寧にしていくようにという内容です。

2点目が給食センター関係です。給食センターに関する情報はできるだけ丁寧に発信する中で事業を進めていただきたいという内容です。

小林職務代理

監査委員の付帯意見について、この内容は実行しなくてはいけないのでしょうか。

深井教育次長

今回の付帯意見については、来年度の監査時点に、こういった進捗状況であるのかの報告が求められます。年度末の3月時点とまた監査直前時点での報告を求められます。

小林職務代理

今回の付帯意見の中で、例えば特別な配慮を要する児童生徒について、「数値を精緻に分析し」とあります。言葉はその時ですが実際問題として可能でしょうか。

また、「数値増加の要因や地域による偏りが存在しているかなどを調査して、次に繋げるよう努められたい」とありますが、次とは何でしょうか。地域による偏在は科学的に言えるのでしょうか。

深井教育次長

傾向として人数が若干伸びていることはありますが、2つの小学校で群を抜けて突出しているという状況です。これについて、アンケートに回答する先生方の目線合わせができていのかという点が要因の一つとして考えられます。監査委員は数値的に判断をしている部分もありますので、そういった部分の指摘がありました。

小林職務代理

いじめの内容について、「全国を見てもいじめ・不登校から重大な事件が発生する事例が多くある」とあります。この内容の根拠はどこにあるのでしょうか。いじめと不登校は別であり、不登校から重大な事案は発生していません。このような、世の中の状況を知って、理解して、ということが必要です。

また、いじめの数についても意見がありますが、文科省を含めて全国的にも不登校の数を減少していくことは止め、不登校の人達の居場所をつくることが大事だという方向に変わってきています。この方向性は県も市も同様です。

山口教育長

給食センター関係について、特別委員会を立ち上げるという話もありましたが、結果的には今ある委員会の中でやっていくという話になりました。このことについて、事務局で何か情報はありますでしょうか。

土屋教育課長

社会文教委員会において、今後の議会休会中にあっても議員との情報のやり取りをさせていただきたいという話がありました。必要があれば議員が集まって委員会を行うとのことでした。

山口教育長

続きまして、イ 教育課の報告をお願いします。

長岡指導主事

(7)全国学力・学習状況調査の結果と考察について、報告します。

全国学力・学習状況調査は、小学校が国語と算数、中学校が国語と数学があり、加えて学習状況に係る質問紙があります。

まず小学校です。国語について、市の正答率はほぼ全国と同等のレベルです。特に正答率が低かった問題の内容は、目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関連づけたりし、伝え合う内容を検討するものです。また、自分の考えを、資料を活用して伝えるという問題も同様でした。特に全国学調では、このような日常生活の場面やデータや資料をもとに、それを読み取って答えるという、まさに求められる学力を問う内容が多いです。分布としてはやや低いところに偏っていて、これが正答率に表れているかと思います。

算数について、市の正答率は全国平均よりやや下回っている状況です。分布としては上位がやや少なく、中間が下位の方に傾いているようです。単純な計算問題だけでなく、合理的な答えの導き方を問う問題が出題されていて、正答率が低くなっています。速さの問題においても、基本的な原理がわかっていないと解けない問題もありました。

質問紙についてです。生活のリズムを問うものについては全国より高い状況でしたが、メディアとの関わりについては、親との約束の中で利用しているように思われます。ネットリテラシーの指導によるものかと思います。ネットの利用方法が不登校にもつながっていくこともありますので、特に注意が必要であると思います。先生との関わりについては、良いという結果が出ています。国語や算数が好きという回答が多い一方で、理科や英語はあまり好きではないという結果もあります。この辺りについては、「わかった」「楽しい」と感じられる学びをしていかなければと思われます。

続いて中学校です。全体的に大きな開きがない結果となりました。国語について、市の正答率は県・国とほぼ同等並みです。特に正答率が低かった問題の内容は、様々な意見の根拠等を、情報をもとに判断していくというものです。自分と違う意見にふれて自分の立ち位置を把握するという問題でした。日ごろの授業の中で自分と他の意見の違いを理解しながら学ぶことが大事であると思います。

数学については、市の正答率が全国とほぼ同等です。例年数学が低い傾向にありましたが、今年は伸びたようです。ただ、基本的な部分で正答率が低くなっているものもありました。こういった部分は再度見返しながら指導が必要です。また、データの読み取り問題も出題されています。この内容は現代に求められていることでもあり重要です。分布としてはやや低い人が多い状況です。全体的に上位に分布ができると良いかと思います。

質問紙については、小学校と同様に生活リズムを問う内容は良い結果が出てきています。ゲームや動画等の視聴についても小学校と同様です。ただ、登校に関わってくることもあ

りますので引き続き注意が必要です。生徒と先生の関係も比較的良い結果が出ています。友達関係に満足しているかという内容については非常に高くなっています。ICTの授業内での利用状況については、全国よりも高い結果が出ています。研修を実施して有効活用していく傾向にあり、学習の1つのツールとしての利用ができている状況がうかがえます。また、小中学校共通してですが、家庭学習の時間が全国より少ないという結果もあります。家庭学習は大きな課題であると思います。

続いて、(イ)標準学力調査(NRT)の結果と考察について、報告します。小学校の2～6学年の国語と算数、中学校の1学年の国語数学理科社会の4教科を実施しています。

まず小学校です。結果としては、どの学年も全国平均並みとなっています。ただ、2・4・5学年の思考と判断の結果が低くなっています。子どもたちに考えさせるということを授業展開の中でも行っていかなければならない部分です。

続いて中学校についてです。ほぼ全国平均で極端に低くなっている観点はありませんでした。国語の漢字の書き、社会では複数の単元で、数学の平面図形、理科の水溶液の特性について特に課題があるようです。学校職員の専門委員会がありますので、この結果をもとに対策やこれからの方針を検討して今後の授業に役立てていきます。

小林職務代理

全体的に見て、算数と数学は問題があるように感じられます。

長岡指導主事

当然のことですが、学校や学年によって差があります。そのためにも専門委員会でも各学校の状況を見てさらに検討していく必要があります。

畑田指導主事

(ウ)北御牧地区市民団体からの意見について、説明します。

7月19日に北御牧地区市民団体が事務局に来訪し、話をしました。以前は小規模特認校の話をされていましたが、今回はそういった話のみではなく、2学級を望まれているということはお聞きました。ただ、北御牧中学校は小規模であり、今後もさらに良い学校を創っていきたいので定期的に情報交換をしたいというお話がありましたのでそれについては承諾をしたという状況です。来訪された方の中で学校運営協議会の委員もおり、他の学校の状況についても知りたいので情報交換会をしてほしいという話をいただきましたが、現時点ではそういった予定はないため、他の学校の学校だより等をお渡しし、学校の状況をお伝えするような形を提案しました。

小林職務代理

当初の要望であった小規模特認校についてはどうなったのでしょうか。

畑田指導主事

一部そういった話はありませんでしたが、小規模特認校だけが手段といった話ではありませんでした。

単級の学年であっても、外部に出ても恥ずかしいことがないように子どもたちを指導していくことは当然のことであり、すでにやっていることですのでそういった話をお伝えしたつもりです。

土屋教育課長

今回話をした方たちの、地域の学校を良くしたいという思いは感じています。そのため、教育委員会との意見交換を今後も続けさせてほしいという要望については、当然こちらとしても皆さんの意見をお聞きする中で必要な判断をさせていただきながら、継続的に行っていきたいと考えています。

直井委員

最近では県内でも、義務教育学校への移行の動きが出てきていますのでそういった方向になっていくのではないのでしょうか。

土屋教育課長

小中一貫校という流れもありますが、そうなった場合、今ある学校の校舎はどうするのかという話にもなります。今後の少子化の流れもありますが、小学校をどう維持していくのか研究してまいりたいと考えています。

長岡指導主事

最初の話があった際にも教育委員の方が言っていましたが、北御牧に誇りを持ってもらいたいということが大きいと思います。今ある北御牧がとても良い学校を作っているということに目を向け、人数やクラス数にとらわれないようにしていただきたいです。成果を上げていることや落ち着いた学校の雰囲気勉強に取り組んでいるという状況を、住民の人たちが誇りをもって取り組むべきであります。

直井委員

もっと子どもたちや先生方、PTAの意見を聞いたうえで教育委員会に話をしないと、本来の話とずれていってしまいます。

小宮山学校施設係長

(イ)児童館における夏休み期間中の利用状況について報告します。児童館の夏休み期間中

の開館時間を早めることについては、6月定例教育委員会でも説明をいたしましたが、この夏休みの利用実績の関係がまとまりましたので報告します。

それぞれの夏休み期間中の利用状況について、令和4～6年度の利用実績としては徐々に増加しています。そういった中で、午前9時から午後5時30分までを施設の開館時間としていたところ、夏休みなどの長期休みの期間について開館時間を早めて欲しいという保護者の方の要望に合わせ、開館時間を30分早め、8時30分としました。今年度の実績としては、全体で1日平均151名利用があり、そのうち8時30分から9時の間に利用した人数平均は75名であり、およそ半数程度の人が8時30分から利用している状況です。

これを受けまして、今後利用された保護者のご意見等をお聞きする予定ですが、継続して実施する場合には職員配置を検討していかなければなりません。できるだけ利用者のニーズに応えられるような形で職員体制を工夫しながら進めさせていただければと考えています。

(オ) 滋野児童館建設工事の進捗状況について報告します。

この工事は本年5月臨時議会において、滋野児童館の建設工事の契約について議決し、6月から工事に着手しています。併せて、建物で消費する年間に必要なエネルギーを省エネ・総エネで収支をゼロにするZEB化を施すこととしています。それに伴い、PPA方式を用いて太陽光発電システムを導入することとして、6月末にはPPAの事業者選定のためのプロポーザル等を実施し、決定を行っています。現在では造成基礎工事が終わり、この9月から本格的な建築工事に着手をしています。既に柱の建築は終わり、屋根伏せを行い始めています。このまま順調に工事進んでいくと、建築工事は概ね予定通り2月いっぱい完了する予定となっております。その後3月中に外構工事を完了させ、令和7年4月1日に新施設の開所を予定しています。

昨年度から滋野児童館建設検討委員会を設置し、設計内容についてご意見をいただいておりますが、本年度は2回建設検討委員会を開催する予定です。直近ですと10月に予定しており、昨年度外壁の色については建設検討委員会で検討することとされていまして、今回の建設検討委員会でご検討いただき、決定していきます。その後もう一度については、建設現場等をご覧いただき、検討委員の方から少しご意見をお聞きできればと考えています。

補足ですが、上田建設事務所から要望があり、上田千曲高校の建築科の生徒が11月頃に滋野児童館の建設現場の方も見学したいということで、対応する予定であります。

山口教育長

続きまして、ウ 保育課の報告をお願いします。

春原保育課長

(ア) 令和7年度保育園等一斉受付について報告します。10月1日から入園申込書類の配布

を開始し、11月の園毎の受付日に書類を受け取ります。その後入園要件の判定、調整等を行い、1月下旬から2月には利用決定通知を発行できるように進めていきます。

山口教育長

続きまして、エ 地域づくり支援課の報告をお願いします。

柳橋地域づくり支援課長

(ア)「とうみ子どもクラブ」受講生募集のお知らせについて報告します。小学生のやる気を伸ばし、将来社会で活躍できる人材育成を目指した講座を開設します。講座のねらいとしては、将来に夢を持ち、何事にも興味を持って意欲的に取り組める子どもを、公民館講座を通じて育成します。子どもたちが故郷東御市へ戻ってくるよう公民館講座を通じた意識づけや青少年リーダーの養成・育成に結び付けられればと考えています。主な内容として、今年度は年度途中ということもあり、半年の間ですが公民館長講話や市内文化財巡り、市長との懇談会や小平奈緒さんの講演会を計画しています。今回は2年1セットで計画しており、次年度に継続させていく予定です。対象は4～6学年15名程度です。子どもたちの他、保護者にもご理解をいただきたいため、保護者説明会も実施する予定です。

小林職務代理

予算はどのくらいついているのでしょうか。

柳橋地域づくり支援課長

予算はついていません。小平奈緒さんの講演会は市民大学講座の中の講演会となっています。予算のある中で実施していこうと考えています。

小林職務代理

必要に応じて予算を付けていくべきです。

柳橋地域づくり支援課長

今後検討していきます。

山口教育長

それでは、9月度定例教育委員会を閉会します。